

体験博物館 千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間 9:00 ~ 16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（2024年12月26日～
2025年1月2日）
臨時休館日 2024年5月8日、
2025年1月7日、3月25日
入場料 一般300（240）円 高大学生150（120）円
※中学生以下と65歳以上無料
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料

瓦 版

大 木 戸

Kawaraban OKIDO

Vol. 73

2024年（令和6年）10月31日

編集・発行

千葉県立房総のむら指定管理者

公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら

〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028

TEL. 0476-95-3333

<https://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>

企画展

「地域に生きる醤油づくり」

醤油は日本人の食生活に欠かすことのできない調味料であるだけでなく、今や世界各国にも輸出されるグローバルな存在です。

料理の調味料として馴染み深い醤油ですが、たれやつゆなどの醤油加工品も普及するなどその用途は大きく広がっています。最近では、醤油を用いたアイスクリームなども販売されるようになりました。

千葉県産の醤油づくりは、江戸時代に銚子の豪農で後にヒゲタ醤油を創業する田中玄蕃たなかげんぱによって始まりました。そして、大手メーカーだけでなく中小規模のメーカーによっても、今に至るまで連続と作り続けられています。

本展では、地域に生きる醤油づくりをテーマに、聞き取りや文献による調査をもとに、千葉県に今も息づく醤油メーカーの歴史や特色、現在の事業展開を中心に紹介します。

第一章「醤油の歴史」

では、醤油のルーツである醬（ひしお）から醤油への変遷に注目します。発酵塩蔵食品で、食物保存、調味料も兼ねていた醬は、平安時代には貴族の食膳にものぼっていました。室町時代末期には関西で醤油が生産されるようになり、江戸時代になると、下り醤油が江戸に入津し、江戸時代後期には、野田や銚子で生産された醤油が江戸の主流となりました。

第二章「醤油の種類と醸造方法」では、醤油の主要原料である大豆、小麦、塩を使っ

た醤油の製造工程を説明します。更に、発酵食品である醤油の醸造において、微生物の果たす役割もパネルの中で紹介します。

第三章「銚子の醤油」

では、ヤマサ醤油、ヒゲタ醤油、小倉醤油の歴史の変遷や事業展開に注目します。ヤマサ醤油は濱口儀兵衛が田中玄蕃に続き醤油醸造を始め、今では全国第2位の生産規模を誇ります。

第四章「野田の醤油」

では、野田の醤油の歴史を振り返りながら、キッコーマンとキノエネ醤油を紹介します。野田では、銚子の田中玄蕃、濱口儀兵衛に続き、高梨兵左衛門が醤油作りを始めました。後に、高梨家は茂木家と共に現在、醤油最大手のキッコーマンを創業します。



ヤマサ醤油の印半纏

令和6年11月7日（土）から
令和7年2月2日（日）まで

第五章「北総・東総地域の醤油」

では、発酵の里神崎のフジハン醤油、創業300年の入正醤油、江戸時代に創業した2つの商店が合併して誕生したちば醤油、江戸末期に創業し、近年は食物アレルギー対応醤油やハラル向け醤油も手掛ける大高醤油を紹介します。

最後に、醤油の容器がどのように移り変わっていったのかを紹介します。

千葉県の醤油づくりは時代の流れに対応しながら、業界トップシェアを維持しています。本展が千葉県の醤油産業界を理解する一助となれば幸いです。

（商家グループ 宮内）



ヒゲタ醤油の醤油樽



入正醤油の麹室

農家・上総の農家

「炭焼き窯の修繕①」

千葉県は古くから炭の生産地として知られ、特に下総地方の「佐倉炭」、上総地方の「久留里炭」は有名です。江戸時代から明治時代にかけて、大都市江戸（東京）に近いことから、薪や炭の供給地となっていました。そのため房総のむらでは開館以来、上総の農家において炭焼きを行っています。

昨年まで使用していた炭焼き窯は、平成23年の震災により壊れ、同年に再建したものでした。しかし炭焼きごとに高温にさらされることもあり、天井部に亀裂、窯内外部の剥離などが発生し、都度修理をしながら炭焼きをしている状況となっていました。そこで、前回の再建時にも協力いただいた、君津市で炭焼きをされている木曾野正勝氏に再度協力いただき、今年度、窯の天井部を作り直すことにしました。

最初に職員の手で、今の窯の天井を壊しました。表面に亀裂がいくつも入っており、そこにベト（粘土）を貼り付け、さらに砂をかぶせている状態でした。しかし玄能で少し叩いた程度では壊れず、かなり力を入れて叩いて壊しました。（写真①）

次に窯の中に立てて入れる木（立木）とその上に乗せる木（型木・乗せ木・切り子）、さらにその上に乗せる粘土を準備しました。木は館内で倒木となった桜の木を使用し、粘土は炭焼き窯の近くの地面を掘り、粘土層部分から採取しました。

これらが準備できると実際に窯作りに取り掛かります。窯の中に立木を入れ、その上に型木を寝かせて乗せ、その隙間に乗せ木・切り子と乗せていき、ドーム状の形にしていけます。（写真②）その上にコモをかぶせ、さらに粘土の固まり（一つ約三・五キログラム）を隙間なく乗せていきます。こうして亀の甲羅のような形をした天井部分が出来上がりました。（写真③）その後この粘土をひたすら叩き、粘土の固まり同士をくっつけて表面を滑らかにし、中の水分を外へと追い出し乾燥させていきます。その様子は次回の大木戸でご紹介します。

（農家グループ 高原）



写真1



写真2



写真3

商家・細工の店

「夏休み張り子教室」

房総のむらでは例年7月末から8月にかけて、夏休み体験演目として様々な特別な演目を実施しています。その中から今回は、「夏休み張り子教室」についてご紹介します。

「夏休み張り子教室」は、佐原張り子の亀車を参考にした、亀の動く張り子作りに挑戦するという、小学生から大人まで楽しめる体験となっております。今年度は大人9名、子ども11名の方々にご参加いただき、満員での実施となりました。

張り子とは、「張子の虎」ということわざにもある通り、固そうな見た目とは裏腹にその材質は紙であり、中身は空洞という一見ただけではどのように作られているのかわからない不思議な構造をしています。そこで、この体験では、張り子を自らの手で作り上げることで張り子に対する理解を深め、身近な工芸品や日本の伝統技術について興味を持っていただくことを目標としています。

体験の大まかな手順は、①張り子型に桑ちり紙（桑の皮で作られた和紙）を水で1枚、糊で6枚の計7枚貼り付け乾燥させる。②乾燥させている間に動く仕組みを組み立てる。③乾燥が終わった張り子のシワをのばし型から取り外す。④不要な部分を切り取り、切り口に細く切った桑ちり紙を貼り付けてさらに乾燥させる。⑤乾いた張り子

下塗りとして胡粉ジェツソ（胡粉（貝殻の粉）の入った白色地塗り剤）を塗る。⑥胡粉ジェツソが乾いた後に張り子に絵付けをする。⑦動く仕組みを張り子に取り付ける。となります。この作業過程は動く仕組み作りを除いて、伝統的な張り子の作り方とほぼ同じ手順となっています。

体験者の方々は、日常生活ではあまりなじみのない和紙の扱いに苦戦しつつも、それぞれ個性のある張り子を完成させ、動く仕組みもしっかりと作動させることに成功し、体験を楽しんでいました。

（商家グループ 山本）



型に桑ちり紙を貼る



絵付けの様子



完成した作品

風土記の丘資料館

「展示解説会」

風土記の丘資料館では、今年度16の体験演目をご用意しました。その中には古代衣装体験のように以前に実施していたものを再度復活させたもの、また、縄文葉作りのように今年度初めて演目に取り入れたものもあります。資料館の体験演目の中でも定番で好評を得ているのは「原始・古代の飾り」シリーズです。滑石を用いた勾玉作り、鹿の角を用いた鹿角製ペンダント作り、貝の阿克セサリー作り、大珠作り、琥珀玉作りは、毎回多くのお客様に体験していただき、喜んでいただいています。また、この内勾玉作りについては団体体験演目としても対応しており、今年度も多くの学校にご利用いただいています。

さらに、体験演目とは別に、歴史教室、歴史ガイド、自然観察ガイドなど9つのコースもあります。昨年4月末にリニューアルオープンした風土記の丘資料館では、展示内容の詳細やどのような視点でこの展示が組み立てられているのかを、展示資料の裏話などを交えながら来館者の皆さんに学芸員がお話しをする展示解説会を実施しています。今年度は、年4回ある考古学講演会の開催月を除く4月、6月、7月、9月、11月、12月、1月、3月に開催しています。午前10時30分からの午前の部、午後1時30分からの午後の部の2部構成で、午前の部は2階部分の回廊展示から第2展示室の旧石器時代から平安時代までの展示についての展示解説、午後の部は、1階の第1展示室の「龍角寺古墳

群と龍角寺」の展示解説をお聞きいただけます。ただし、今年度は9月から1月までの5か月間は、第2展示室で企画展示を開催するため、午前の部も午後の部も第1展示室の展示解説を実施します。

また、学校団体、一般団体向けには事前予約をお受けして展示説明も実施します。昨年度は5団体にご利用になりました。今年度も多くのご利用をお待ちしております。

(風土記の丘グループ 萩原)



古代衣装体験



勾玉作り

広報・普及

「伝統文化入門」

この演目は、古くから日本に伝わる伝統文化を実演や体験を通して、広く来館者を知っていただくとともに、当館の博物館活動にも関心を持っていただくことを目的として実施しているものです。

今年度第1回は、6月22日(土)で「紙切りの実演・解説及び体験指導」を紙切りの花房銀蝶氏をお迎えして実施しました。

紙切りは、江戸時代に入り演芸として始められ、宴席の余興に謡や音曲に合わせて、様々な形を切り抜く芸として始まったとされます。

今回は、まず日本の伝統芸能や寄席の歴史について説明した後、実際の切り方を実演していただき、それを見ながら参加者も実際にカタツムリ等の見本を切ってみました。

講師の話では、紙を切る手の動きはもちろんですが、更に反対側の紙を持つ手の動きが重要になるとのこと、例えば、丸く切る場合は、ハサミの動きだけに頼るのではなく、反対側の手で紙を切りやすいように紙自体を回すことがきれいに切れることだとのことでした。また、切りにくくなったら、一旦リセットして切りやすい所から切り直してみることもきれいに切るコツだそうです。

体験者は講師の指導の下、更に難易度の

高いものにも挑戦し、その中には、当館のオリジナルキャラクターのぼうじろーを綺麗に切ることができた方もいました。

今回の体験者にはお子さんも参加されていましたが、飽きることなく熱心に体験していました。講座終了後に、何人かの体験者に話を聞いてみましたが、「館に来てこの講座を知り、突然の参加にも関わらず、とても楽しく紙切りができて、はさみの使い方が良くわかるようになりました」、「芸人さんのお人柄もあり、楽しく参加することができました。機会を見つけて他の図柄にも挑戦してみたいです」など、多くの意見が寄せられました。

今後は、更に調査を重ね、様々な伝統文化を伝えていきたいと思えます。

(広報・普及グループ 谷鹿)



紙切り実演風景



房総のむらにおけるロケ撮影あれこれ

千葉県立房総のむらでは、商家町並みや上総・下総・安房の各農家において、古い建物を再現し、昔ながらの景観を作りだしています。この景観が、博物館としてのひとつの展示にもなっており、非日常への没入感を味わえるのが大きな魅力となっています。

そのため、映画・ドラマ・CM・バラエティ番組など各メディアのロケ地として、たびたび使っていた機会が多く、そういった作品を作るスタッフさんに聞いてみると「房総のむらは園路がコンクリートで舗装されていないのが良い」と仰っていました。建物だけでなく、景観全体を考えた設計になっていることがそのような業界で働く人の目に留まるようです。

平成18年からの記録となりますが、令和5年度末時点で約500件の撮影を受入れています。おそらく平成18年以前にも実績があると考えられるので、総数としてはこれを超えるものと考えられます。

では、房総のむらがどのような作品の舞台となったのかも併せて紹介できればというところではあります。いわゆる「大人の事情」というもので作品名・出演者等を列挙できないので、筆者の作品へのイメージでお伝えすることをご容赦ください。

例えば、紅茶を優雅に注ぐ刑事が主人公で、相手と共に難事件を解決するドラマや、昭和天皇に仕えたとある宮内省大膳職

司厨長の生涯を描いたドラマなどが皆様の良くご存知ものではないでしょうか。ほかにも、大河ドラマ、特撮ヒーローものや、一世を風靡したアイドルのミュージックビデオなどで房総のむらの各所が登場するの、見返す機会があれば、どのシーンに登場するのかわざひ探してみてください。

ちなみに、房総のむらには大木戸の入り口手前に「ロケ写真館」というものがひっそりと存在しています。そこには房総のむらが舞台となった作品に登場したキャストさんのサイン色紙等が展示されているので、ご興味がありましたら足をお運びいただければと思います。

本紙を執筆している令和6年度中も何件か撮影を実施、あるいは実施予定となっておりますので、その公開を楽しみにしてもらいたいのと同時に、房総のむらが映ったら驚いていただきたいと思っています。

(広報・普及グループプロケ担当)



撮影風景

まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

また、館内はテント類の設営、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。まつり開催期間中は、コスプレでの撮影の予約はお受けしておりません。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



◇編集後記◇

今年はこの原稿を書いている時期になっても真夏が続いており、年を追うごとに暑さが厳しくなっている様子を実感しています。

2年後には、房総のむらが開館してから40年になります。開館当初には考えられなかったような暑さの中、屋外での体験を中心とした博物館として、今後どのような対策が取れるのかも、真剣に検討していかなければならない時期に来ているのかなあ、なんて考えてしまいます。

(広報・普及グループ 谷鹿)

令和6年度 下半期のイベント

- 文化の日・日本遺産北総四都市デー
11月3日(日)
- 房総座
11月17日(日)・2月15日(土)
- 企画展「地域に生きる醤油づくり」
12月7日(土)～2月2日(日)
- 伝統文化入門
12月22日(日)
- むらのお正月
1月3日(金)・4日(土)
- トピックス展「房総の牧」
2月22日(土)～4月20日(日)
- さくらまつり
3月20日(木・祝)～24日(月)

※上記以外に多くの実演・体験をご用意しております。詳細は令和6年度体験のしおり、または当館ホームページをご覧ください。